

コメント：
八代教授
「社会保障国民会議
報告書の読み方」

中田 大悟

RIETI 研究員

nakata-daigo@rieti.go.jp

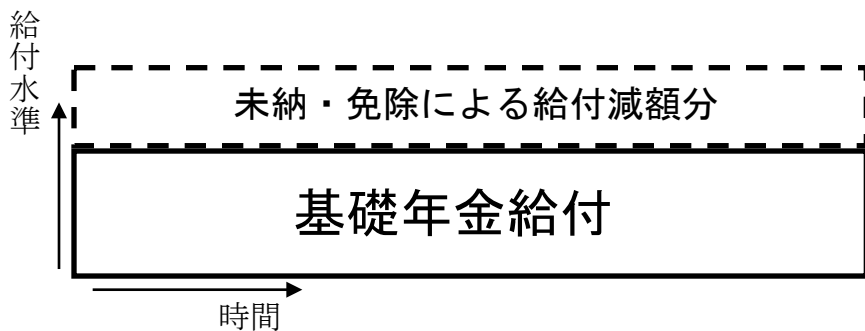
本コメントに記載された見解は、中田個人のものであり、RIETI、経済産業省、その他の政府機関のいかなる公式見解とも無関係なものであることをお断りしておく。

全体的な感想

- ◎ 年金制度に関する問題意識と、志向する改正の方向性に違和感なし。
- ◎ 議論のために、敢えて問題提起。
- ◎ 基礎年金租税(目的消費税)方式化が唯一の選択肢か。
- ◎ 現行の社会保険方式を維持したままで、とりあえず、国庫負担を8割程度に引き上げることを目指すという選択肢もある。
- ◎ 医療・介護保険制度については、民間活力の活用に工夫が必要。

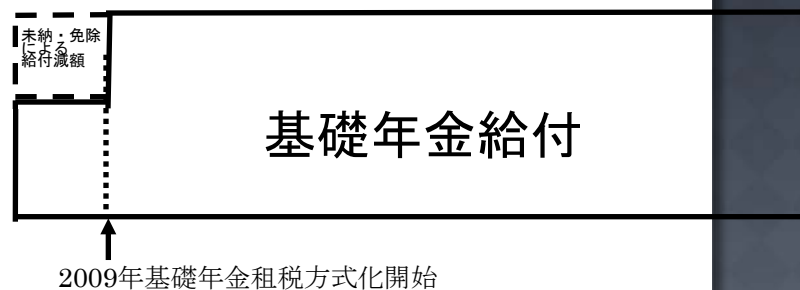
社会保障国民会議における 基礎年金税財源化の試算

現行制度



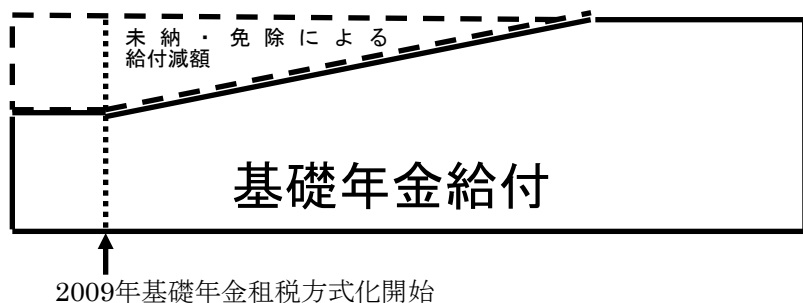
A案(拠出履歴無視の一律給付)

追加財源の消費税率換算
5% (2009年) → 7% (2050年)



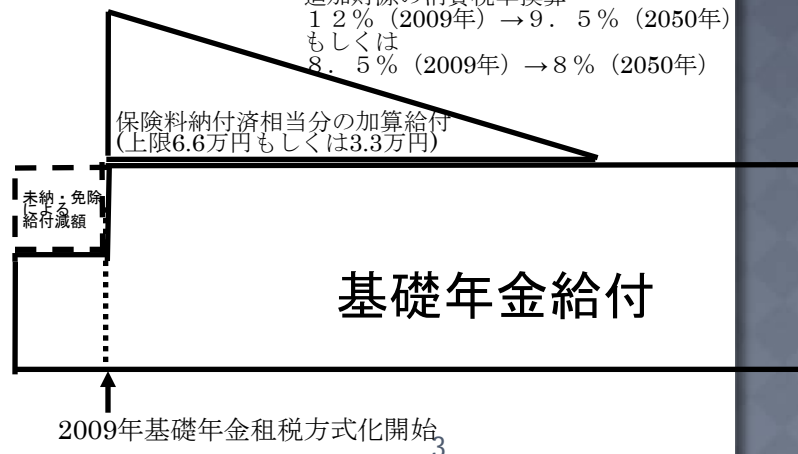
B案(拠出履歴反映の長期移行)

追加財源の消費税率換算
3.5% (2009年) → 6% (2050年)



C案(一律給付+保険料納付相当加算)

追加財源の消費税率換算
12% (2009年) → 9.5% (2050年)
もしくは
8.5% (2009年) → 8% (2050年)



未納は問題にあらず？

- ◎ 未納による積立不足と将来給付の減少はおおむね相殺しあう。これは、計算上、正しい。
- ◎ 拠出無くして給付なしの社会保険制度で皆年金
- ◎ 基礎年金=所得再分配のための年金
報酬比例年金=消費平滑化のための年金
- ◎ 現行制度では、基礎年金(国民年金)も実質的に報酬比例年金(未納と免除)。
- ◎ そもそも、基礎年金制度は国民年金制度の救済制度。
- ◎ かって国民年金の給付水準設計は厚生年金と遜色なかった。

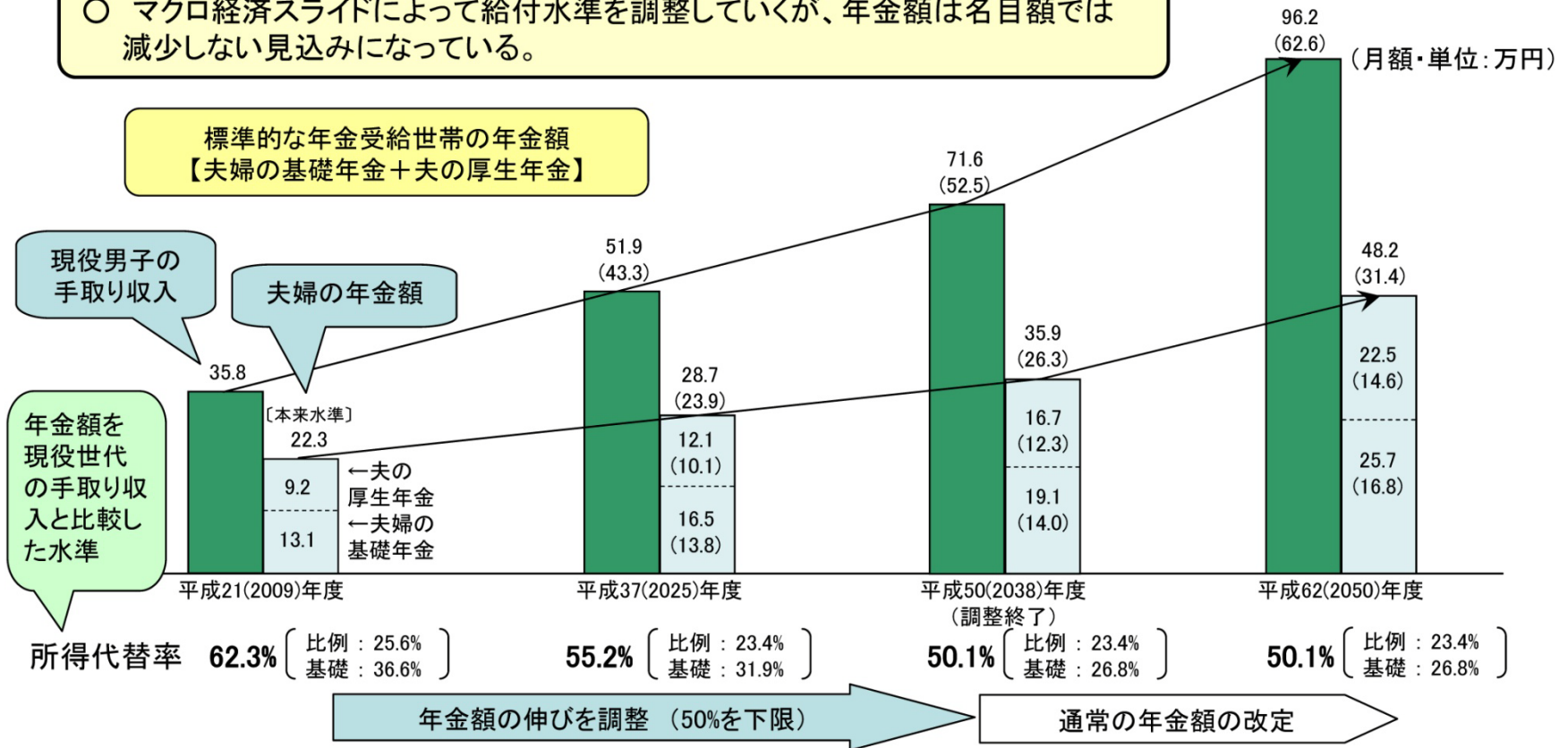
老後の所得保障

- ◎ 国民年金給付を圧縮させて基礎年金とすることで延命措置が図られた。
- ◎ 基礎年金の増額をはかるべきという意見も
⇒過去の経緯に逆行していないか
- ◎ とはいいいながら、目減りしていく基礎年金
- ◎ 目的税方式ならどこまでの給付を維持できるのか
- ◎ 年金制度のみで老後の所得保障を完結させるべきか
- ◎ 足らずまいを年金制度の枠組みの外で給付
⇒指摘のとおり、給付付税額控除の設計を急ぐべき。
- ◎ 年金は年金内部の整合性の維持改善に勢力を傾注すべき。

目減りしていく基礎年金(財政検証より)

厚生年金の標準的な年金の給付水準の見込み(年金を受給し始めた時の年金額)

○ マクロ経済スライドによって給付水準を調整していくが、年金額は名目額では減少しない見込みになっている。



(注1) 基本ケース(人口は出生中位(死亡中位)、経済中位)の場合。

(注2) マクロ経済スライドによる給付水準の調整は平成24(2012)年度に開始する見込み。

(注3) 次の財政検証の時期(平成26(2014)年度)における所得代替率は60.1%の見通しであり、この時点で50%を下回る見込みとはなっていない。

(注4) 報酬比例部分の給付水準の調整は、図中の調整終了年度(平成50(2038)年度)よりも早い平成31(2019)年度に終了する見込み。

(注5) 図中の数値は各時点における名目額。()内の数値は、物価で現在価値に割り戻した額。

(注6) 年金額はスライド特例によるかさ上げ分のない本来水準。平成21年度に実際に支給される基礎年金額は夫婦で13.2万円(スライド特例によりかさ上げ)。

(注7) 年金をもらい始めた年以降の年金額(名目額)は物価上昇率で改定されるが、通常は物価上昇率よりも賃金上昇率の方が大きいので、そのときどきの現役世代の所得に対する比率は下がっていくことになる。

目的税だろうか保険料だろうか

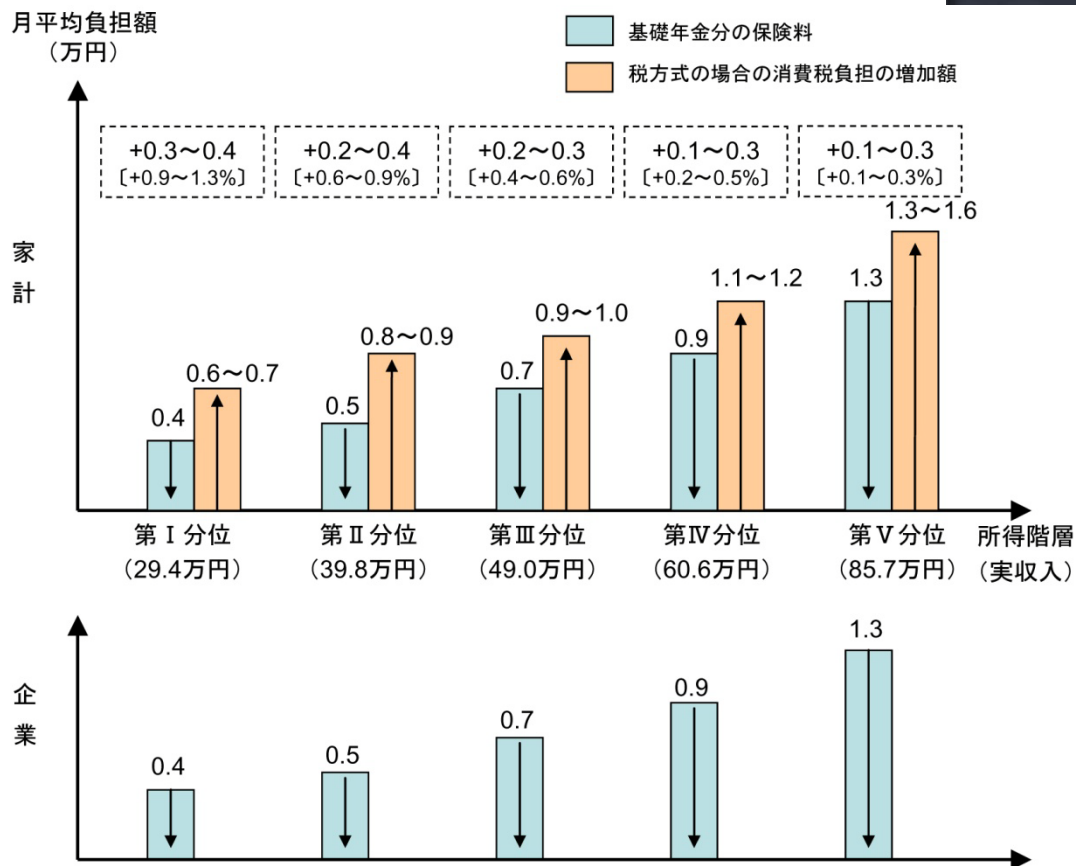
- 未納問題と労働市場に対する歪みが是正できればよい。
- 「もっと小さな税方式」
- 国庫負担を8割(消費税率2%強か)まで引き上げられれば相当程度のパートタイム労働者をカバーできる。
- そのような低所得で未納の人が問題。そのような人たちでも納付可能な保険料。
- 第三号被保険者制度も廃止して、定額・低額が、夫考えらる。額を支払うことも考えられる。(コンビニなどで)

目的税方式化した際の問題は

- ◎100年逃げ切りプランとしての有限均衡方式
- ◎2004年改正では負担を平準化
- ◎積立金は積み立てられるのか。
- ◎動かさない消費税
- ◎動かせてしまう保険料
- ◎居住期間をカウントするのか、保険料
拠出期間をカウントするのか
- ◎国民の消費税アレルギーと目的税財源
活用のメリットへの認識を見定めてから
完全目的税化を図っても遅くない。

所得階級別に見た家計と企業の負担の変化

- ◎ B案のもとでの推計
- ◎ 水色棒(左側)が現行制度での保険料負担
- ◎ オレンジ色棒(右側)が消費税化した場合の負担
- ◎ 素直にこれを見れば、家計の負担が増大すると同時に、企業負担が減る、としか読み取れない。



出典：国民会議シミュレーション公表資料

ミクロ試算の問題点

- ◎ 転嫁と帰着の問題を無視して粗数字のみ公表
- ◎ 保険料の事業主負担
- ◎ 消費税はだれの負担か

世代間不公平をどこまで問題視するのか

- ◎ legacy debtとしての年金純債務
- ◎ 高齢者からどれだけ「取り返す」のか
- ◎ 世代間格差の是正が年金の信頼回復に寄与するか
- ◎ 消費税率上昇分を物価スライドさせない
- ◎ 技術的に可能か
- ◎ 将来世代の年金額はどのようにするのか
- ◎ 遍く負担させて取り返すことの問題点

年金以外での所得保障も

- ◎ 年金に限らず、消費税増税は不可避。
- ◎ わが国の脆弱な所得再分配制度。
- ◎ ほどほど貧しくとも、ほどほどに安心できる社会の実現。
- ◎ 給付付税額控除はその有力なツールになる得る。
- ◎ 問題は、どのような個人・世帯に給付を行うのか
- ◎ マイクロデータ(パネルデータ)の決定的な不足。
政策インフラなしで政策決定せねばならない現実をどうかえるのか。

医療・介護制度

- ◎ 公的負担と私的負担の両面における財源の拡大が必要
- ◎ 財源の拡大と内部非効率性の是正をどのように両立させるのか
- ◎ 選択と集中のための人的資本は足りているのか

総医療費対GDP比率国際比較

